

「発達障害の治療の試み」

—検査を基にした分子整合栄養医学による内科的治療—

《 目 次 》

序文. 発達障害や精神障害の治療を願って.....	1
◇ 出版の意味合い.....	1
◇ 分子整合栄養医学との出会いと取り組み.....	3
◇ 精神症状の治療に関する私たちの立場.....	4
◇ 発達障害の治療を始めるに至った経緯.....	6
◇ これからの治療の方向性 —機能性医学—.....	6
◇ 病名と治療についての考え方.....	7
◇ この本に同意して治療を始める方に.....	8
◇ お問い合わせについて.....	9
◇ 医師及び医療関係者の方に.....	11
◇ ご注意ください！.....	12
《 目次 》.....	13
I. 発達障害から良くなった子供たち.....	19
A. 3歳の女の子.....	20
強い不安感と緊張感（時にパニック状態）、疲れやすい。 小児科で、広汎性発達障害、うつ症状の疑いと診断される。	
B. 3歳の男の子.....	37
精神的に不安定、かんしゃく、集団での生活のしにくさ、自己中心、 空気が読めない、寝起きが悪い、偏食（タンパク質を摂らない、炭水	

化物や甘い物を欲しがる)、乳や小麦をとると酔っ払ったようになる。

C. 6歳の男の子.....	45
Bの兄。かんしゃくやパニック（イベントの時泣いて出来ないなど）、 注意欠損で集団行動が取れない。4歳半でADHDと診断された。	
D. 1歳6カ月の男の子.....	55
言葉が遅れ、歩かないなど精神的・肉体的に成長が遅く、小児神経科 では1歳4カ月の時点で「7カ月児程度」の発達と診断された。	
E. 3歳の男の子.....	71
異常な食欲があり、落ち着きの無さから、周りから多動ではないかと の指摘を受けた。	
II. どのように治療をするのか.....	81
A. 治療の枠組みと方法.....	82
1 分子整合栄養医学を基本としています.....	82
◇ 遺伝子情報に基づいて	
健康を十分な栄養によって形成する治療法.....	82
◇ 遺伝子を傷つけるもの.....	84
・栄養欠損.....	84
・活性酸素.....	84
・ウイルス.....	85
◇ 身体や神経・脳に悪影響をもたらすもの.....	86
・腸内環境の悪化と酵母菌.....	86
・脳に影響を及ぼすペプチド（未消化のタンパク質）.....	87
・有害ミネラル.....	88
◇ 遺伝子の修復と修復不能な場合.....	91
◇ 遺伝子修復には十分な量の栄養補給が必要.....	92

◇ 対症療法ではなく、 遺伝子に基づく身体の回復機能を応用したもの.....	92
◇ 細胞や身体が傷つく害のあるものを除去する.....	93
2 機能性医学の枠組みを採用しています.....	93
◇ 機能性医学 (Functional Medicine) の意義.....	93
◇ 機能性医学とは何か.....	95
◇ 機能性医学の基本的な概念.....	96
◇ 環境要因の重要性.....	96
◇ 基本的な生理学的変化.....	97
◇ 核心的臨床的アンバランス.....	98
 B. 発達障害についての私たちの立場.....	99
1. 精神疾患や発達障害の診断について.....	99
2. 発達障害に関する厚労省の説明.....	106
◇ 発達障害の概略.....	107
◇ 発達障害の治療 (みんなのメンタルヘルスより).....	109
3. 私たちが治療をしてきた症状.....	112
◇ 機能性低血糖症に関して.....	112
◇ 貧血・栄養不良・エネルギー不足による症状.....	113
◇ 低コレステロール血症.....	115
 C. 発達障害の治療への取り組み.....	118
1. 治療の枠組みと費用.....	118
2. 当院の治療の手順.....	125
3. 問診表及び経過表の記入.....	131
4. 有機酸検査 (OAT、尿検査) の説明.....	139
5. ペプチド検査 (尿検査) の説明.....	141
6. IgG検査 (血液検査) の説明.....	142
7. 有害ミネラル検査 (毛髪検査) の説明.....	146
8. 一般血液検査その他の確認.....	148

D. 治療方法の説明.....	154
1. 有機酸検査項目の説明.....	154
2. 腸内環境改善の方法.....	170
◇ 腸内環境改善のプロセス.....	170
◇ 治療に用いる乳酸菌.....	172
3. 治療に必要な栄養素.....	174
4. 症状改善に向けて食事や生活で気を付けること.....	181
III. 治療に必要な知識や理論.....	187
A. 身体の形成と栄養の補給.....	188
1. 胎児の諸器官の形成、気を付けること.....	188
◇ 母胎の健康と胎児への影響.....	188
◇ 胎児に必要な栄養.....	190
◇ 妊娠中に避けたいこと.....	191
◇ 胎児への栄養補給方法と有害物の侵入の注意.....	192
2. 出産の奇跡と免疫形成.....	197
◇ 循環器系の変化.....	197
◇ 子宮の変化.....	198
◇ 腸管免疫の発現.....	198
◇ 母乳の凄さ.....	199
3. 乳児の成長と栄養、注意点.....	201
◇ 乳児の消化吸収能力と栄養.....	201
◇ 食物アレルギーに気を付ける.....	202
◇ 母乳の秘密.....	204
◇ アトピー性皮膚炎の予防.....	204
◇ 乳児期に必要な栄養素.....	206
◇ 身体の各器官の発達の状態.....	208
4. 幼児の発達と栄養、注意点.....	211

◇ 幼児期の心身の発達.....	211
◇ 幼児期に起こりがちな栄養の問題点.....	212
5. 学童期と思春期の成長と栄養、注意点.....	213
◇ この時期の食育の重要性.....	213
◇ 心身の発育発達の特徴と栄養不良.....	214
6. 栄養に関して知っておくべきこと.....	219
◇ ホメオスターシスの維持には十分な栄養が必要.....	219
◇ 栄養不足の原因.....	220
B. 障害への対応の基礎知識.....	222
1. 血糖値と精神症状の関係.....	222
◇ 人間に必要なエネルギー量.....	222
◇ 三大栄養素によるエネルギーの補給の仕組み.....	225
◇ 血糖の変化に伴う心身の症状.....	228
◇ 血糖値を上げるシステム.....	229
◇ インスリンの働き.....	232
◇ インスリンと血糖曲線の相関.....	235
◇ 血糖調整に関わるホルモンの働き.....	236
◇ 自律神経と血糖値.....	240
◇ 血糖調整に関わる体質や病気そして習慣.....	242
◇ 消化吸収と低血糖の関わり.....	246
2. 腸内環境と免疫の働き.....	250
◇ 消化と吸収と酵素の働き.....	250
◇ 便秘や下痢について.....	257
◇ 腸内環境とは.....	258
◇ 腸管免疫.....	261
◇ 腸内細菌バランスを乱す現代社会.....	263
◇ 腸内に酵母菌が増殖した場合の症状.....	264
3. 脳と神経伝達物質の働き.....	266
◇ 脳の構造と働き.....	266

◇ 神経伝達物質の種類と作用.....	272
IV. 統計、よくある質問、索引.....	279
A. 発達障害検査統計.....	280
B. よくある質問.....	288
参考文献.....	297
索引.....	300
あとがき.....	306